

特集

水害に備えよう



近年、河川の氾濫による浸水(洪水氾濫)や下水道や水路からの浸水(内水氾濫)など、水害が深刻化しています。水害から身を守るため、ハザードマップで自宅の災害リスクを把握し、適切な避難行動を取れるようにしましょう。

各種ハザードマップの入手方法

泉区ホームページ	区役所窓口	各世帯への配布
 泉区 ハザードマップ 検索	1階総合案内 または 3階総務課(305窓口)	令和4年8月末までに、 浸水ハザードマップ ※を全世帯・全事業所に配布予定です。 ※洪水・内水ハザードマップを1冊にまとめたマップです。

洪水ハザードマップの見方

洪水ハザードマップは、境川水系流域で24時間に632ミリメートルの雨が降った場合、河川からあふれた水により浸水が想定されるエリアを示したマップです。

⚠️ 下水や水路の排水能力を超えた場合に発生する「内水氾濫」については、内水ハザードマップでご確認ください。

確認のポイント

ポイント4 アンダーパス

アンダーパスとは、鉄道等の下を通過するため、周辺の道路よりも低くなっている箇所です。大雨が降った際に冠水し安全な通行に支障をきたすため、避難する際は迂回するなど注意しましょう。

ポイント1 浸水する深さ

予想される浸水の深さに応じて色がつけられています。自宅付近に色が塗られている場合は注意が必要です。

10.0~20.0m未満	※泉区内では、該当エリアはございません。
5.0~10.0m未満	
3.0~5.0m未満	2階部分まで浸水する深さ
0.5~3.0m未満	1階天井付近まで浸水する深さ
0.0~0.5m未満	おとなの膝まで浸かる深さ

ポイント2 避難場所

洪水が発生するおそれがあると区役所が判断した場合、**赤文字**で示された小中学校や地区センターを避難場所として開設します。
 ※避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)などで開設されている避難場所をご確認ください。

ポイント3 土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に被害が及ぶおそれのある区域が、赤または黄色で色付けされています。

風水害避難判断シート

洪水ハザードマップには浸水が想定されるエリアに色が塗られています。自宅の場所に色がついているかを確認し、色が塗られている場合はマップ右下の「浸水深のめやす」から、想定される浸水の深さを確認しましょう。

メモをしよう!

あなたの家の場所に塗られている色	あなたの家の想定浸水深
	m~ m

⚠️ 内水ハザードマップで色のついているエリアにお住まいの人は、このシートによらず自宅内の浸水対策、自宅内での安全確保に努めましょう。

自宅の場所は洪水による浸水が想定される場所でしたか?

はい

想定される浸水深よりも高い場所(2階以上)へ避難できますか?

はい

あなたがとる行動は 屋内安全確保

浸水深よりも高い場所へ移動し、安全確保することで対応が可能です。自宅の2階以上にとどまることを想定し、必要な備蓄をしましょう。



同居者に高齢者や乳幼児など、避難に時間のかかる人はいますか?

はい

あなたがとる行動は 立退き避難*

警戒レベル3 高齢者等避難
が発令されたら避難に時間を要する人(高齢者、障害のある人、乳幼児など)とその支援者は、避難を開始します。



いいえ

あなたがとる行動は 立退き避難*

警戒レベル4 避難指示
が発令されたら直ちに身の安全を確保できる場所へ避難を開始します。



いいえ

あなたがとる行動は 自宅で安全確保

停電や断水などに備えた準備が必要です。内水氾濫による浸水が発生した場合は、土のうなどによる浸水対策や、屋内安全確保を中心に対応します。



※「立退き避難」とは、自宅に留まらず「安全な親戚や知人宅、宿泊施設」や「行政の開設する避難場所」へ避難することです。

「あなたがとる避難行動」はあくまでも目安です。状況に応じて適切な行動をとるようにしましょう。